

認定看護師(新生児集中ケア)活用の可能性

横尾 京子¹⁾ 入江 暁子²⁾ 服部 満生子³⁾
田中 都代子⁴⁾ 長内 佐斗子⁵⁾

Possibility of Make Use of Certified (Neonatal Intensive Care) Expertized Nurse

Kyoko Yokoo¹⁾ Akiko Irie²⁾ Makiko Hattori³⁾
Toyoko Tanaka⁴⁾ Satoko Osanai⁵⁾

要 旨

本調査は、看護管理者の認定看護師(新生児集中ケア)の受け入れに関する認識を明らかにし、臨床への活用の可能性を探ることを目的とした。ハイリスク新生児の病床が独立看護単位である16施設の看護部長または総婦長の回答を記述的に分析した結果、次の知見を得た。①全員が認定看護師(新生児集中ケア)は必要と回答し、その70%が「是非必要」および「是非研修に派遣し、できるだけ早く採用したい」と回答した。②採用を考えている場合、50%が「研修は出張扱い」で「給与は全額保証」、「交通費は全額保証」と回答した。③全員が「認定看護師に役割と責任の権限を与える」と回答した。これらの結果は、

1996年のスタッフ・主任・婦長を対象にした調査結果と同様であった。看護管理者の認定看護師(新生児集中ケア)に対する認識は肯定的かつ積極的なものであり、臨床での活用の可能性は大きいものと考えられる。より円滑な活用には、認定看護(新生児集中ケア)の役割、責任と権限が具体的に明示、理解される必要がある。また、認定看護師制度を複雑化しないために、他の既存の研修・認定制度との調整をする必要がある。

キーワード：新生児集中ケア 認定看護師 看護管理

Accepted September 1, 2001

- 1) 広島大学医学部保健学科 Institute of Health Science, Hiroshima University School of Medicine
- 2) 北里大学病院NICU Department of Nursing, Kitasato University Hospital
- 3) 埼玉県立看護大学短期大学部 Saitama Prefecture Junior College of Nursing
- 4) 大阪府立羽曳野病院 Osaka prefecture Habikino Hospital
- 5) 日本赤十字医療センター Japanese Red Cross Society Medical Center

Abstract

The purpose of this study was to identify the nursing administrators' recognition about the acceptance of the certified (neonatal intensive care) expertized nurse and to find the possibility of make use of the certified expertized nurse clinically. The questionnaires were sent to the nursing administrators of 16 hospitals which have the neonatal intensive care unit. As a result, 1) everyone answered that the certified expertized nurses are necessary, and 70% of them answered "certainly necessary" and "certified expertized nurses will be dispatched to the in-service training from time to time, and desired to be employed as soon as possible." ; 2) If the employment is under the consideration, 50% answered that "the in-service training will be treated as an official trip", "the payment will be fully insured", and "the traffic expenses are fully paid." ; 3) Everyone answered that "the role and the responsibility will be given to the certified expertized nurses." These results were as same as those of the study undertook toward the staff nurses and nurse managers in 1996. The recognition for the certified expertized nurse by the nursing administrators is positive and also active, and the possibility for the make use of the certified expertized nurse clinically will be big. For the smooth use, the role, the responsibility, and the authority should be clearly stated and be understood. And also, in order not to confuse the certified expertized nursing system, it should be distinguished from other in-service triaging and the recognized systems.

Keywords : neonatal intensive care, certified expertized nurse, nursing administration

I. はじめに

認定看護師の認定看護分野は、現在、救急看護、WOC看護、重症集中ケア、ホスピスケア、がん性疼痛看護、がん化学療法看護、訪問看護、感染管理看護、不妊看護、糖尿病看護の10分野であり、地域看護と不妊看護を除く8分野の教育が実施されている。これまでに409人が認定を受け、認定看護師として活躍しているが、受け入れ体制の整備が重要な課題とされている¹⁾。

新生児看護の領域では、2000年10月に「新生児集中ケア」の分野特定を申請した。しかしながら、既に指摘されているように、分野が特定され教育が開始されたとしても、看護管理者に必要性が認識されなければ、臨床では活かされないことになる。

そこで、申請と並行して、認定看護師（新生児集中ケア）の受け入れに関する看護管理者の認識を調査し、活用の可能性を探ることにした。

II. 調査方法

調査対象は日本小児総合医療施設協議会総婦長部会に所属する看護部長または総婦長とした。調査は、一部自由記載を設けた構成型質問紙を用いて行った。質問内容は、施設の背景、認定看護師の必要性・採用・研修・処遇・役割に対する考え方とした。

総婦長部会会長および当番施設総婦長に調査目的と方法、守秘義務について説明し、了解を得た後、質問紙を当番施設に郵送し、出席者への配布を依頼した。質問紙の回収は郵送によった。結果の分析は、記述的に行った。

III. 結果

1. 施設の背景

質問紙は27施設の出席者に配布し、17施設から回答を得た。その内、ハイリスク新生児の病床をもたない1施設を除外し、16施設からの回答を分析対象とした。回答者が属する施設の背景は、表1に示した。公立病院が16

表1 施設の背景

設置主体	公立	14施設
	国立	2
病床総数	500床以上	3
	300~500床	3
	100~300床	7
	100床未満	2
看護婦総数	500人以上	2
	300~500人	5
	100~300人	7
	100人未満	2
看護体制	2:1	14
	2.5:1	1
	3:1	1
ハイリスク新生児が入院する病棟		
NICUなどの独立した病棟		16
病床数	26.6±17.0 (2~50)	
特定入院料 (NICU加算) について		
認可されている		14
認可されていない		2
他領域の認定看護師の導入		
導入している		5
導入していない		11

n = 16

施設中14施設であった。全施設がハイリスク新生児病床は独立看護単位として機能しており(1施設は小児病棟にも病床を有していた)、平均病床数は26.6床 (SD17.0) であった。NICU加算が認可されているのは14施設で、平均認可数は9.4床 (SD4.5) であった。認定看護師を導入している施設は5施設 (31.3%) で、看護分野はWOC看護4施設、重症集中ケア3施設、ホスピスケア1施設であり、救急看護を導入している施設はなかった。

2. 認定看護師(新生児集中ケア)の必要性

認定看護師 (新生児集中ケア) は16人全員が必要と回答し、その内10人 (62.5%) は「是非必要」と回答した (表2)。「必要性に対する理由は、表3に示したように、「看護の質向上」よりも、その基盤となる「看護婦の学習や意欲」に回答が多かった。

3. 認定看護師 (新生児集中ケア) の採用についての考え方

認定看護師 (新生児集中ケア) の採用につ

表2 認定看護師 (新生児集中ケア) の必要性

是非必要である	10人
どちらかといえば必要である	6
どちらかといえば必要でない	0
まったく必要ない	0

n = 16

表3 必要と考える理由 (重複回答)

体系的に学び、概念化していくためには、 一定の学習期間が必要である	13人
看護職が意欲を持って働く目標となる	11
看護婦が主体的に役割を担うようになる	8
特別な知識と技術を要するので臨床経験や 病棟勉強会で身につくものではない	8
看護の質向上に繋がる	9
看護婦の社会的地位の向上に繋がる	7
その他:産科病棟との連携を図る	1

いて、「是非研修に派遣し、できるだけ早く採用 (導入) したい」と回答したのは16人中11人 (68.8%) であった。

「必要と思うが、採用はしない」と回答したのは2人であった。1施設は、WOC看護ホスピスケア、重症集中ケアで認定看護師を各々1人ずつ採用しているが、「対象が限定している」ので新生児集中ケアには採用しないという回答であった。因みにNICU床は2床であった。もう1施設は、「現在の体制を調整することが難しく、採用しても上手く活用できない」と回答した。その他の意見として、都の周産期エキスパートナース研修が取り上げられており、1人は「それを活用」、もう1人は「レベルが未熟、導入を検討」と回答した。(表4)

採用数については、「是非研修に派遣し、できるだけ早く採用 (導入) したい」と回答した11人中8人が、「病院または病棟で数人いればよい」と回答した (表5)。

認定看護師 (新生児集中ケア) の必要性と採用についての考え方の関係は、表6に示した。「是非必要」で「是非研修に派遣し、できるだけ早い時期に採用したい」との回答は10人、「どちらかと言えば必要」で「採用はしない」との回答は2人であった。また、「是非必要」だが「他の研修を活用する」、「どどちらかと言えば必要」だが「是非研修に派遣し、

表4 認定看護師（新生児集中ケア）の採用についての考え方

是非研修に派遣し、できるだけ早く採用（導入）したい	11人
研修には派遣しないが、認定看護師を募集し、採用したい	0
新生児集中ケアの認定看護師は必要と思うが、採用はしない	2
必要とも、採用（導入）しようとも思わない	0
その他：都の周産期エキスパートナース研修のレベルは未熟、導入を検討したい	1
都の周産期エキスパートナース研修を活用する	1
無回答	1
n = 16	

表5 認定看護師（新生児集中ケア）の必要性と採用の考え方

	是非研修に派遣し早く採用したい	必要だが採用しない	その他	無回答
どちらかといえば必要	2人	2人	1人*	1人
是非必要	9	0	1**	0

n = 16 *：都の研修を活用する

**：都の研修は未熟、採用を検討

表6 採用数への考え方

病院または病棟で数人いればよい	8人
病院または病棟で1人いればよい	1
日勤帯で必ず1人はつけたい	1
各勤務帯で必ず1人はつけたい	0
無回答	1
n = 11	

できるだけ早い時期に採用したい」との回答もあった。

4. 認定看護師（新生児集中ケア）の研修についての考え方

研修に派遣し採用したいと回答した11人中7人は、研修の対象と人数について、「看護部が推薦あるいは希望者がいれば、毎年1人あるいは1～2人、研修に出したい」と回答した（表7）。また、研修中の施設側の保証は「出張扱い」で「給与は全額保証」が最も多い回答であった。研修中の滞在費は「全額自己負担」、交通費は「全額保証」が最も多かった

表7 研修への考え方

看護部が推薦し、毎年1人は研修に出したい	5人
看護部が推薦し、必要時、研修に出したい	3
看護部が推薦し、毎年1～2人は研修に出したい	1
希望者がいれば、毎年1人は研修に出したい	1
希望者がいれば、必要時、研修に出したい	1
無回答	1

n = 11（1人が複数で回答）

が、研修費について、全額保証・一部保証・全額自己負担はほぼ同数であった。（表8）

5. 認定看護師（新生児集中ケア）の処遇と役割についての考え方

認定看護師（新生児集中ケア）に対する処遇については（表9）、「役割に責任と権限を与える」は11人全員が「与える」と回答し、「夜勤の免除」は8人が「与える必要はない」と回答した。「給与体系をよくする」と「配置転換の免除」は、「与える」との回答が多かった。役割については表10に示したように、「病棟に配属、病棟の役割を果たしながら看護部の卒後教育に参画する」との回答が最も多かった。

期待する役割（自由記載）には、実践、指導・教育、相談・調整、研究に関する役割であった。例えば、「看護の指導と看護レベルの監視」「自己の研究テーマに取り組み、研究的視点で問題発見、業務改善に取り組むことができる」「NICUに配属するが、必要に応じて、他病棟での相談や指導にももの」「新生児看護の分野において、施設内外からの相談に応じることができる」「新生児看護分野でのスーパーバイザーとしての役割を担う」「カウンセラーとしての役割を担う」などであった。

IV. 考察

本調査の回収率は63%であった。しかし、配布した27施設中ハイリスク新生児の病床を有する施設は16施設であり、結果、該当する全施設からの回答が得られたことになる。以下、1996年にスタッフ・主任・婦長を対象に実施した調査結果²⁾と比較しながら、認定看

表8 研修中の保証についての考え方

研修は：出張扱い 5人	休職扱い 2人	研修 2人	職免 1人	無回答 1人
給与：全額保証 5	一部保証 2	保証しない 1		無回答 3
研修費：全額保証 2	一部保証 3	全額自己負担 2		無回答 4
滞在費：全額保証 1	一部保証 2	全額自己負担 4		無回答 4
交通費：全額保証 4	一部保証 1	全額自己負担 2		無回答 4

n = 11

表9 認定看護師（新生児集中ケア）の処遇についての考え方

	与える		与える必要なし		無回答
	設置主体として	病院として	看護部として		
役割への責任と権限	4人	4人	3人	0人	0人
給与体系を良くする	4	2	2	2	1
配置転換の免除	3	1	3	3	1
夜勤の免除	0	0	2	8	1

n = 11

表10 認定看護師（新生児集中ケア）の配属先と役割についての考え方

病棟に配属、病棟の役割を果たしながら	
看護部の卒後教育に参画	9人
病棟に配属、病棟の役割を果たす	1
看護部に配属、必要とされた場所に出向く	0
外来に配属、必要とされた場所に出向く	0
認定看護師部門を作り、自由に活動する	0
無回答	1

n = 11

看護師（新生児集中ケア）活用の可能性について考察する。

認定看護師（新生児集中ケア）は、全員が必要、70%が「是非必要」と回答した。この結果は、1996年の主任・婦長の回答と同様であったことから、指導や管理の立場にある者は認定看護師の受け入れを肯定的に認識していることがわかる。

採用については、「是非研修に派遣し、できるだけ早く採用（導入）したい」との回答が70%であった。その中で「看護部が推薦して毎年1人は研修に出したい」および「研修中は出張扱いで、給与および交通費を全額保証する」との回答は半数近くであった。1996年の調査では、40%が「自発的に取得したい」と回答し、その70%が「自費でも取得する」、87%が「退職してでも取得する」と回答した。これら2つの調査結果から、施設側の資格取

得を支える取り組みと、個人の資格取得への姿勢に積極性をみてとることができる。

認定看護師への処遇についても、1996年の調査と同様の結果で、回答が最も多かったのが「役割への責任と権限が与えられる」であった。配属先と役割は、「病棟に配属、病棟の役割を果たしながら看護部の卒後教育に参画する」が多かった。この場合、注意を要するのは、専門看護師の役割に相当するものが認定看護師に期待されていたことである。過度の役割期待を持つことによって個人への負担が大きくなるように、認定看護師（新生児集中ケア）に焦点を当て、病棟での役割、責任と権限をより具体的に明示し、他職種からも理解される必要があると考える。

認定看護師（新生児集中ケア）の必要性和採用についての考え方の関係をみた場合、「是非必要」と考えても、「都の研修を活用」ので「採用しない」との回答があった。この「都の研修」については、「レベルが未熟、認定看護師を検討する」と異なる見解が認められた。今後、認定看護師制度を複雑化しないために、既存の新生児集中ケアに関する研修制度との調整をする必要がある。

V. 結論

本調査は16施設に限られたが、1996年のス

スタッフ・主任・婦長を対象にした調査と同様の結果が得られた。看護管理者の認定看護師（新生児集中ケア）に対する認識は肯定的かつ積極的なものであり、臨床での活用の可能性は大きいものと考えられる。しかしながら、より円滑な活用には、認定看護師（新生児集中ケア）の役割、責任と権限が具体的に明示、理解される必要がある。また、認定看護師制度を複雑化しないために、他の既存の研修・認定制度との調整をする必要がある。

謝辞 本調査を終えるにあたり、ご協力を賜りました日本小児総合医療施設協議会総婦長部会会長 井出眞沙子様、長野県立こども病院

総婦長 武井陽子様、神奈川県立こども医療センター総婦長 山本匡子様に深謝いたします。

引用文献

- 1) 岡谷恵子：資格認定制度の現状と今後の課題，平成13年度看護白書（日本看護協会編），pp.51-62，日本看護協会出版会，2001年。
- 2) 横尾京子・入江暁子・服部満生子：ハイリスク児看護の専門化に関する看護職の意識とニーズ，認定看護師制度化の可能性，日看管会誌1(1)：14-22，1997。